

令和6年度富山県生涯学習カレッジ運営会議議事録

- 開催の日時 令和7年2月28日(金) 10:00～11:30
- 開催の場所 富山県教育文化会館505号室(ハイビジョン学習室)
- 運営委員総数 16名
- 出席運営委員 14名
荒井克博、上埜真知子、打越山詩子、遠藤直孝、神川康子、笹田茂樹、澤木昇、塚崎志津江、中崎圭子、野坂真澄、藤田公仁子、堀田紀子、本田正則、八十島元一

1 会議の概要

(1) 本江学長開会の挨拶(要旨)

- ・運営会議は、昨年度より本部と4つの地区センターの会議を統合して実施している。
- ・昨年の会議では、委員の皆様方より大変貴重な意見をたくさん頂戴した。
- ・いただいた意見を基に、本年度は改善できるところを改善しながら、また、課題を整理しながら事業を進めてきた。本日はそのような点についても報告したい。

(2) 会長選出

- ・事務局から富山県生涯学習カレッジ条例施行規則第5条第3項による会長の選出について、慣例に基づき「富山県生涯学習団体協議会会長」の荒井委員を会長に選出することが提案された。全員異議なし。
- ・荒井委員が会長に選出され、以降、荒井会長が議事進行。

(3) 職務代理者の指名

- ・県生涯学習カレッジ条例施行規則第5条第5項に基づいて、荒井会長が本田委員を指名。

(4) 協議内容

①会長が、「令和6年度実績、令和7年度予定」について事務局に説明を求めた。

事務局が資料に基づき説明を行った。

②会長が、「富山県生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題」について事務局に説明を求めた。

事務局が資料に基づき説明を行った。

③会長が、現状と課題「1 学習情報の収集・提供と学習相談への対応について」意見、質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・「とやま公民館学遊ネット」のアクセス数を増やすため、令和3年度から今年度まですべての大会、研修会の講演、実践発表を録画して「とやま公民館学遊ネット」で配信させていただいている。現在は57本の動画を配信、アクセス数は5,500を超えている。
- ・資料を見ると公民館学遊ネットへのアクセスは微減しているとのことで、来年度はさら

に工夫をしながら、各公民館がよりよい情報発信をできるように取り組んでいきたい。

(会長)

- ・公民館ネットが導入されて10年と少しになるが、公民館活動の活性化に大きく資している。

④会長が、現状と課題「2 多彩な学習機会の提供について」意見、質問を求め、概ね以下のような発言があった。

(委員)

- ・為末大氏のウェルビーイング講座には高校生が70名ぐらい来られたということで、何か働きかけがあったのか。

(事務局)

- ・為末氏の講演会については、元陸上選手ということもあり中高校の陸上部に声をかけ、結果的に70名あまりの高校生に参加いただけた。

(委員)

- ・7年度の講座関係について、事前に資料を拝見した際、ウェルビーイングという言葉が消えた。
- ・また、夏季講座には「著名な講師」と書いてあるが、みらい創造講座には「著名な」という言葉がない。
- ・そのため、みらい創造講座には著名ではない方をあえて招いて具体的な話をしてもらうのかというイメージを持っていたが、話を聞いていたら「著名な」という言葉が入ってきたため、夏季講座との違いが見えなかった。
- ・若い世代へ、ということは伝わってくるが、ウェルビーイングという名前を外した理由などあれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・新規事業のみらい創造講座、そしてこどもまんなか教室については、これまで実施してきたウェルビーイング実現講座が1つの予算上の区切りを迎えたため、新規講座を立ち上げるという形で計画した。
- ・夏季講座、みらい創造講座は大型講座ということで、講師の方をお呼びして皆さんに話を聞いていただく機会といった点では、これまでのウェルビーイング大型講座との変更はない。
- ・今年度の為末氏の講演に高校生が来てくれたこともあり、そのような方にも集まっていたら、ということのみらい創造講座は少し強調した。
- ・ご指摘のとおり、著名な講師の点については、やはり、著名な方でないとなかなかたくさん集まってもらえないという困難はある。
- ・お呼びする講師についても「行ってみよう」という気持ちになっていただけるような方に来ていただくということで、著名のあるなしに関わらずお願いしていきたい。

(会長)

- ・みらい創造講座は中高生も対象にしたいという説明があったが、同じく新規講座でこどもまんなか教室が企画されている。こちらは、小学生とその家族が対象とある。

(委員)

- ・お子さんを対象とすると、保護者も確実にこられるほか、家に帰ってから探究的に自分で好きなことを広げることにつながるため、多彩な活動をお願いしたい。

(会長)

- ・県の生涯学習団体協議会の会長方にもお越しいただいており、教養講座などいろいろなコンテンツを提供いただいているが、そのような立場からご発言をいただけたら。

(委員)

- ・受託講座数は変わらないが、定員に対して参加される方が、コロナ禍前の数字を追い越すような勢いで伸びている。
- ・ただ、講座を運営する組織という面では高齢化が進んでおり、学遊祭のステージ発表が減っているという話題においてもリーダーの方々が体調を崩されると参加が難しいという状況。

(委員)

- ・学習団体講座の受講生は60代～80代あたりで、70代が中心のため、その方向けに講座を開講している。一方で、運営委員の側からはいつも高齢者ばかり対象にしたものだけやっていていいのか、という意見もあった。

(委員)

- ・地区では、地区内の教育委員会の方の助言などをいただくなどして、ステージ発表などはコロナ以後増えてきている。展示の方も増えてきて喜ばしく感じる。

(委員)

- ・先ほど、ウェルビーイング講座がなくなったという話があったが、個人としては「ウェルビーイング」が何を指すか伝わらない言葉を文化事業に使用するという事に違和感を覚えていた。
- ・富山県の文化事業を推進していこうという団体として、もう少し日本語を使うような努力、心がけをして欲しい。

(会長)

- ・富山大学では先進的な取り組みを行っているが、カレッジ全体について意見を承りたい。

(委員)

- ・コロナ禍が落ち着いて来て、オンラインよりは対面講座の要望がすごく高くなってきている傾向があるが、オンラインの希望もあることから、今後両輪でいかなければいけない。講座の種類によってオンライン、オンデマンド、対面という形になっていくのではないかと思う。
- ・オンデマンドで一番難しいのが著作権の問題。講師側で難しいということがあり、二の

足を踏んでしまうことがある。

- ・利用する側は好きな時間に学べるということでニーズが高い。他県の生涯学習センターで実施されているところもある。
- ・現役世代の受講者を増やしていくということについては、例えばリカレントやリスキングというところにターゲットをしても、参加してもらうのが難しいという現状がある。
- ・全国規模でやっているオンライン講座が現役世代の要望に応えるようなものが多数ある。
- ・小学生向けの講座についても、講座を夏休みや連休に設定すると、自治体や民間との競争環境に入ってしまう。そのため、親子、子どもの講座の実施については二の足を踏んでしまうという状況。実際にどういうことを計画されているのか情報共有できたら。

(事務局)

- ・これまでは通常の講座に現役世代を呼び込もうということで取り組んでいた。
- ・例としてつながる学びわくわく講座のコースの1つに現役世代で活躍しているような方を呼び、土曜日開催にすることで、現役世代の方に来てもらえないかと考えていたが、来ていただくことが難しかった。
- ・これをふまえ、今回新たにこどもまんなか教室として、お子さんと体験しながらであれば来てもらえるのではないかと、ということで企画した。
- ・今までやっていた講座については、ご高齢の方々の関心が深い、主に歴史に特化した講座を作るという形で模様替えをおこなった。
- ・民間との競争環境、という話題については課題もあると思うが各地区センターも出席しているためお話をいただきたい。

(事務局)

- ・こどもまんなか教室について、新川地区センターではセンターの横に流れている片貝川に行って石を探し、その石について学ぼうという企画を立てている。

(事務局)

- ・富山地区センターでは、色鉛筆を使ってアート作品を描いてもらうことを計画している。

(事務局)

- ・高岡地区センターでは、親子で楽しめる理科実験を企画している。

(事務局)

- ・砺波地区センターでは、新聞社の仕事や新聞の読み方を体験するものを企画している。

(会長)

- ・以前、公民館で県の補助事業で「公民館 親子自然体験」のような事業に取り組んでいた記憶がある。その事業が続いているか、あるいは成果があれば意見をいただきたい。

(委員)

- ・「公民館 親子で自然体験、ふるさと体験」をずっとやってきていたが、7、8年前に

終了している。当時、事業の成果は上がっていた。

**⑤会長が、現状と課題「3映像による学習支援について」意見、質問を求め、概ね以下のよ
うな発言があった。**

(会長)

- ・郷土学習教材など優れた作品が多く、学校等で活用していただいているということで意義深いと感じている。
- ・今年、2025年に行くべき52の都市に富山市が選ばれたということで、見どころについての情報がいろいろなところから発信されている。
- ・映像センターでも祭りや伝統行事、自然など大変いい作品が並んでいる。それを1つに凝集して、県民の皆さんがそれを見て、こういう風に紹介すればいいのだな、というよ
うな作品も1本あっていいのではないかと思う。

(委員)

- ・最近「寿司と言えば、富山。」という言葉も聞く。寿司やます寿司のような、何かそ
れに関わるようなものもあればどうか。

**⑥会長が、現状と課題「4学習交流や学習発表の支援について」意見、質問を求め、概ね以
下のような発言があった。**

(会長)

- ・学遊祭やキャンパスフェスティバルをはじめ、発表の場が欲しいという声がいかにあ
るものか、また、そうした要望に応えられているのかということも気になるところ。

(委員)

- ・地区センターだけではなく、自治体でも生涯学習のフェスティバルのようなものはやっ
ているが、参加者が減っているように感じる。
- ・発表する団体が高齢化していることもあり、コロナによって途切れた活動を再開し、発
表したという機運までまだ盛り上がっていないのではないか。
- ・また、何年間か活動が途切れたこともあり、また1から組み立て直しをしている状況、
ということもあると思う。
- ・キャンパスフェスティバルのような学習成果の発表は一生懸命活動されている方にと
ってはとてもいい機会だと思う。

(委員)

- ・地域活性化のためにはこのような発表機会を得ることによって、参加者の生きがいや自
己肯定感を高めていくことは非常に大切。
- ・発表だけではなく、技能や知識を子どもたちに教えるような機会があってもよいと思う。
- ・昨年度の会議で若年層の参加についてお尋ねしたが、こどもまんなか教室を開設する
というのは、非常にいいことだと思う。
- ・県民カレッジの参加者が習ったことを還元する、先ほど子どもにも教える機会のように
申し上げたが、そういったことで、自分たちが世の中の役に立っているという感覚を得

る機会を増やしていくことが必要ではないかと考える。

(事務局)

- ・自遊塾の令和7年度の募集要項には子どもと保護者がセットで受講することを前提に行っている講座、例えば「初めまして 家族で楽しむ越中万葉かるた」がある。
- ・自遊塾の出前講座について今年度から学校向けにも案内を出した。運用に至った例は1、2程度だが、今後この活動が広まって学校側からも「子供向けに来ていただけないか」というような話が出てこないか期待している。

(委員)

- ・仕事から退いた際に、「こんなことがやりたかった」と気づいた時に、自遊塾を利用する、参加するというのがいいなと思っている。
- ・自遊塾に入ったら繰り返し受講されている方が多いとのこと。やりたいことが見つかったということだと思うが、そうでない人もたくさんいらっしゃると思う。
- ・ピアノ教室の体験会のような1回ずつ、或いは30分ずつ体験するような機会を作っても良いのではないか。

(委員)

- ・講座について、提供したいテーマを広めるために人に集まってほしい講座と、来られない方、こちらの目に見えていない人に届けることが目的の講座の設定の仕方があるように考えている。
- ・人数集めについても、初めからそれを目的にしてしまうと、数字が去年より多くなった、少なくなったという目で見えるようになってしまうため、本当に伝わったかを見ていけたらいいと思う。
- ・講座後のアンケートには「どのようなジャンルの話を聞きたいか」、「講師として誰を呼んでほしいか」、という問いがあるが、結果次年度の計画に反映されているのか気になっている。
- ・高齢者の参加が多いということは、高齢者が元気だということだと思うので、高齢者の学びをもっと大切にしていっても良いのではないか。熱意が高齢者にはすごくある。世代間交流ができることを目的にした講座を設定しても良いのではないか。

(事務局)

- ・大型講座については、どうしても人数が気になる場所。アンケートの、特に誰に来てもらいたいかというご意見は参考にさせていただいて来年の講師を選んでいる。
- ・来年度から始めることもまんなか教室は人数ではなく、県民カレッジとして若い世代にも伝えたいという思いをもって取り組んでいく。

(会長)

- ・カレッジにおかれては、委員の皆様にお話しいただいたご意見、ご要望など十分ご検討いただき、今後に生かしていただきたい。委員の皆様方には、本当に実りある運営会議

にさせていただいたことに深く感謝申しあげる。

○本江学長閉会の挨拶（要旨）

- ・本日は、委員の皆様いろいろな立場から大変貴重なご意見、ご助言を賜り誠に感謝申しあげる。
- ・県民カレッジは昭和63年の開学からこれまで36年にわたって富山県の生涯学習の推進に努めてきた。時代が変わっても色々なニーズに対応しながら、今後も生涯学習を推進していきたい。
- ・本日、いただいたご意見を踏まえて、より一層県民カレッジにおける生涯学習が充実したものとなり、ひいては県民の皆様がよりよい人生を送っていただけるようカレッジの運営を進めて参りたいと思う。皆様方には引き続きご指導、ご鞭撻をお願い申しあげる。

以上をもって運営会議を終了した。